



学習意欲の向上

校長 石ヶ森 孝順

深まる秋、子どもたちには、じっくりと勉強に集中して欲しい時期です。

「勉強ってどうしてするの?」と子どもに尋ねてみると、様々な答えが返ってきます。

◇ 将来を見通しているタイプ

行きたい高校・大学に入るため、大人になって困らないように、なりたい職業に就くため…

◇ 資質・能力を獲得したいタイプ

考える力を身に付けるため、集中力を身に付けるため、判断力を身に付けるため…

◇ 自然に動機付けされているタイプ

親に言われるから、勉強はするものだから、知識は必要だから、分かったら楽しいから…

◇ 人生をダイナミックに考えているタイプ

未来を切り拓くため、様々な困難を乗り越えるため、夢を叶えるため…



北海道教育委員会は、全国学力・学習状況調査のクロス集計（児童質問紙と教科の平均正答率を掛け合わせて集計したもの）による分析から、次のとおり回答した児童に正答率の高い傾向があることを公表しています。

「自分には、よいところがあると思う」

【自己有用感・自己肯定感】

「自分と違う意見について考えるのは楽しい」

【自己理解・他者理解】

生活が規則的で、本を読み、勉強をする時間もと、ゲームの時間が少ない子どもは、正答率が高い…というのは当然のことに思いますが、「自己有用感」についても重要な要素であることは特筆すべき視点です。これは、小学校と中学校において同様の傾向です。

一方で、次のような調査結果があります。

国立青少年教育振興機構が行った国際比較調査では、日本の高校生の「自己肯定感」は、国民性があるという見方もできますが、米国・中国・韓国に比べ低い傾向が見られました。

「体力に自信がある。」

日本37.9% 米国72.5% 中国60.8% 韓国51.6%

「つらいことでも乗り越えられる。」 日本68.7% 米国89.8% 中国80.4% 韓国84.7%

「今の自分に満足している。」 日本41.5% 米国75.6% 中国62.2% 韓国70.4%



改めて、子どもの個性に目を向けて、よいところやがんばっていることを言葉や態度で伝えることを大切にしたいものです。そのことが、「自己有用感」を生み、自分は人から必要とされている、自分の存在を認めてくれているという安心感を高め、自信や意欲につながるものと思います。

